



眞鍋淳一
武蔵野音楽大学声楽科卒
町田市立鶴川第二中学校主任教諭
町田市の他中学でも合唱指導者として、全国大会の優勝経験を持ち、2005年に鶴二中へ赴任、同校合唱部を創設する。全日本合唱コンクール金賞、TBS合唱コンクール文部科学大臣奨励賞、2015年にはNHK全国学校音楽コンクール全国コンクール金賞(全国大会2連覇)など受賞。また全国各地の合唱研修や授業研修、研究大会、大学の講師を務めるなど幅広く活動している。

コンクールという目標の大切さ

眞鍋なな子先生(以下)
N 私はこれまで小学生に合唱を指導してきました

になりますが、赴任した直後に合唱団を作り、最初の年からコンクールで受賞、2年後に東京都のコンクールで金賞をとりました。コンクールに出ると、という目標があるこ

目標を持つ子は自分を変えられる、問題乗り越えられる

たが、中学に入ると合唱団がなかったりして、歌うことをやめてしまう子どもたちを大勢見てきました。鶴川では小学校を卒業しても次に合唱団が盛んな中学校があるので、難しい曲にもチャレンジできます。

眞鍋淳一先生(以下)
私としても、同じ学区の鶴二小で既に合唱のベースができた子が、中学校でも合唱を続けることができ、さらに高みを目指す状況が整っているのがあります。鶴二中で合唱を指導して、今年で11年目

ととても重要だと思えますね。
N コンクールに出場するために練習を重ねていくと、一人ひとりの中に凝縮されていくものがあります。いろいろなことを追求しないと、いけませんから、先生の指導力も必要となります。先生もそうですが、子どもたちも夏休みのんびり過ごすか、午前中練習して、生活のリズムを作るかによって変わってきます。体力もつきますよ。練習中はずっと立って声を出しているから、体の芯が鍛えられるのです。夏休

み明けの朝会では、気分が悪くなって立ってられない子が出ますが、合



唱団の子は一人も倒れませんが。3時間、4時間、立って歌うことに慣れて

歌を通して目標を追求する姿勢を学ぶ

J 歌うということには、心や気持ちがとてもよく表れるものなんです。歌っている子どもたちを見てみると、友達関係で悩んでいるとか、いろいろなことが分かります。

J 歌うということには、心や気持ちがとてもよく表れるものなんです。歌っている子どもたちを見てみると、友達関係で悩んでいるとか、いろいろなことが分かります。

いますから、体力がついているのです。
J 体づくりとか、か、やはり体の芯がしっかりできていないと、いい声も出ません。体や心の指導も含めて、技術的なことを教えて、最高の準備ができれば、あとは送り出すのみ。私たちはその準備を整えてあげているだけです。

N コンクールは自分の中の目標になります。小学校高学年の子は鶴二中の先輩の歌声を聴いて、それを目標にする。それは理屈じゃなくて、



N 学校に行きたくない自分自身の問題を乗り越えていく子もいます。

いなあと感じている子でも、合唱が好きなので合唱のためだけに登校してくる、という子がいます。でも合唱だけして帰るわけにいかないから、授業に出るようになります。さぼりたいけれど、コンクールがある。だから頑張ろうって、子どもながらに思うのじゃないか。

J 学校には自分の成長に影響を与えるいろいろなきっかけがあります。教科も9教科ありますし、勉強も運動もクラブ活動もいろいろあります。

J 学校には自分の成長に影響を与えるいろいろなきっかけがあります。教科も9教科ありますし、勉強も運動もクラブ活動もいろいろあります。

す。ですから合唱が生徒指導にもつながるんですよ。また、歌うことで自

N 歌うことや合唱には、これで100点だということがありません。算数だったらテストの点が悪かったとか、はつきり分かりますが、合唱は点数ではなくて、自分が聴いて素晴らしいと思う歌声があるなら、それを目標に練習する。そうしたら、追求する姿勢を学ぶことが合唱かもしれせん。紙に書いたり、計算することとは違って、歌

うことは自分の目や耳や声、全身を使って覚えなければいけないので、それも子どもたちにとって得難い経験になっていくと思います。

J それに、合唱は一人ではできませんから、みんなと協力する。自分ができるいところを他のメンバーがカバーしてくれる。他のメンバーができないところを自分がカバーする。気持ちが一つになっていないと、いい

J 赴任先ごとに合唱を指導して、私の次の先生が合唱の指導を続けてくれて、そうやって町田市のあちこちで歌声が広がっていきばいいなと思っています。私自身、中学生の時に指導してくれた音楽の先生の良い思い出がたがって、今に至っています。そして今では、教え子の中から音楽の先生になって、私がやったこと以上の指導をしている子が出てきています。合唱指導のハウツー



ハリーモニーは生まれません。だから声の相性を合わせようと、自分なりに努力する。子どもの努力はすごいなと思います。大人でも難しいことを小学生、中学生がしているんです。

地域の人たちに支えられて

J 町田に住んで35年以上になりますが、合唱を指導してきてありがた

いのは、地域の方々の協力や応援があることです。コンサートの時には、たくさんの人たちが来て下さいます。

音楽で豊かな心を広げたい

J 音楽には「ここで終わり」ということがありません。どこまで行き着けるのか、ということに、鶴二小や鶴二中の子どもたちと挑戦してみたい。子どもたちが、それぞれ小学生らしく中学生らしくありながら、どのくらいすてきな音楽を奏でることができるかが課題の一つです。合唱は、自分自身の体全体を使って表現するものなので、心と声の両方を磨いていかなければいけません。それがいい形になって、鶴川から町田全体へ、そして日本全国へ響いていく。歌う子どもたちも聴いている人たちも、心が豊かになっていく。それが一番いいことだと思います。

N 学校の近所のおばあちゃん、今の楽しみは鶴二小のコンサートだと言ってくれるんですよ。保護者の方々も本当によく協力して下さいます。コンクールの当日には、私の忘れ物までチェックして下さいます。いろいろなフォローしていただけるので本当にありがたいです。

J 赴任先ごとに合唱を指導して、私の次の先生が合唱の指導を続けてくれて、そうやって町田市のあちこちで歌声が広がっていきばいいなと思っています。私自身、中学生の時に指導してくれた音楽の先生の良い思い出がたがって、今に至っています。そして今では、教え子の中から音楽の先生になって、私がやったこと以上の指導をしている子が出てきています。合唱指導のハウツー



眞鍋なな子
武蔵野音楽大学ピアノ科卒
町田市立鶴川第二小学校主任教諭
中央区・狛江市・大田区の小学校で合唱指導を行い、多数の受賞歴を持つ。鶴二小でもきめ細かな合唱指導を行い、同小合唱団を全国レベルへと導く。また全日本音楽教育研究会全国大会など数多くの場で公開授業を行い、全国各地でワークショップの講師を務めるなど、歌唱・合唱指導者として幅広く活動している。著書に「子どもが輝く歌の授業」がある。